



グリーンインフラの取組み

- みどりを活かして「社会課題を、超えていく。」 -

URはグリーンインフラの取組みを推進します

私たちのまちと住まいは、現在、気候変動や生物多様性の損失など環境関連リスクへの対応、また、人口減少・少子高齢化の進行や災害の激甚化・頻発化等、多岐にわたる社会課題に直面しています。これら課題に対し、自然の持つ多様な機能を賢く利用する、グリーンインフラの活用が当たり前である社会を実現することが、解決の一助になると考えます。

URは、前身となる日本住宅公団の設立以来70年以上にわたり、まちの魅力を高める緑地の整備や団地にひろがる緑豊かな屋外空間の提供など、地域特性に応じた自然環境の保全・再生・創出を行い、みどりを活かしたまち・住まいづくりを展開してきました。

長年継続してきたみどりの取組みを、グリーンインフラの活用という視点から捉え直し、さらに充実させていきます。これまでの実績を基盤に、新しい知見を柔軟に取り込み、幅広いステークホルダーの皆さまとともにグリーンインフラの実装を進め、持続可能で美しく安全で快適なまち・住まいを実現していきます。

1958

既存樹木の保全



多摩平団地(現:多摩平の森)
元御料林であった既存樹林を保存し団地を建設。

1961

配置設計「風土派」の団地建設

高根台団地

「風土派」と呼ばれる、風土や地形を活かした住棟配置を実施。地形の起伏に沿うS字街路が特徴。

1965年

1960年代公団初の既存樹木移植

多摩ニュータウン
公団初の既存樹木移植を実施。

1970

共同花壇の設置

森之宮団地

お住まいの方が手入れを行う共同花壇を設置。取組みが広がり、現在では全国162団地に設置。

1980

グリーンマトリックスの形成

港北ニュータウン

グリーンマトリックス形成の第一歩となる「せせらぎ公園」完成。公・民の垣根を超えた、水と緑を基軸とする都市骨格がここから本格的に形成。

▶詳細はP15へ

1975年

1972 国連人間環境会議

1968

建物緑化の実施

又穂団地

自動灌水システムを利用した建物緑化を試行実施。検証結果を基に、他団地にも技術を展開。

1981

日本初雨水浸透工法導入

昭島つつじヶ丘ハイツ

日本初の雨水浸透工法を導入。

▶詳細はP31へ

1992

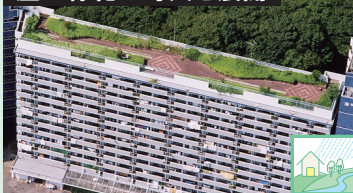
国連環境開発会議(地球サミット)

1985年

1985 ウィーン条約

1977

屋上緑化の導入と展開



北砂五丁目団地に屋上緑化を施工。整備により得られた知見は、以降の施工にも活用。また、2012年の調査結果から、周辺市街地よりも冷涼であることを確認。

1992

ビオトープの整備

高槻・阿武山上の池公園

当時の国内では、まだ一般的ではなかったビオトープの考え方に基づき、調整池を活かし生態復元を目指した公園整備を実施。

1997

COP3: 京都議定書採択

1995年

1994

グリーンバンクシステムの実施

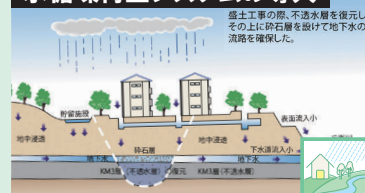
団地再整備での樹木の移植・保全・伐採材の活用による循環システム。

▶詳細はP15へ

2005年

2007

水循環再生システムの導入



八王子みなみ野シティ

兵衛川の水量安定のため、流出抑制施設、低水保全施設を整備。安全で潤いのある水辺環境を実現。

2011

みどりのネットワークの形成



シャレール荻窪
川の涼風や団地の大木による緑陰、小鳥や虫が集う豊かな自然環境を活かし、地域の想いを受け継ぎながら、快適に暮らせるまちへと再生。

人と自然との調和



いわきニュータウン
「人と自然との調和」をテーマに、丘陵地の自然を活かしつつ、中心に公園を配置し、全体の約3分の1を緑地として確保した、緑豊かで統一感のある住宅地として整備。

自治体と連携した水辺再生

サンヴァリエ桜堤

東京都、武蔵野市と連携し仙川の水辺再生を実施。水源の確保や生物多様性に配慮したビオトープ池を整備。

▶詳細はP16へ

2014

低炭素なまちづくり

越谷レイクタウン

洪水被害軽減に貢献する調整池の整備とともに、環境共生モデル地区を設定し、持続可能なまちづくりを目指した。

2015

SDGs 採択
COP21:パリ協定採択

2015年

2010
COP10:
名古屋議定書
採択

2016

地域環境とコミュニティの再生



福島県いわき市
薄磯地区・豊間地区
どんぐりプロジェクト
高台住宅整備の際、造成によって伐採される樹木のDNAを残すため、どんぐりの苗木を地域住民等と防災緑地等に植樹。

2020

地域環境とコミュニティの再生



コモレ四谷

江戸時代に築かれた外濠、人工的に掘りこまれた地形と連続したみどりを有するこの地域に、建築と一体で創った多段状のみどりが、平面だけでなく、立体的にも連続したみどりの都市景観を形成。

賑わいを生む防災公園



IKE・SUNPARK

地域の防災機能を高めるとともに、P-PFIの導入により賑わいを生む公園づくりを行い、地域の活性化を促進。

▶詳細はP15へ

団地の緑を活かした環境教育



江南団地

生きものや緑について学ぶ場として、団地内の森やコンポストを活用した「どんぐり教室」「かぶとむし幼虫教室」を市と協働で開催。

▶詳細はP16へ

2025年

2026
グリーンインフラ
推進戦略2030

2024

スマートシティ・サステナブルなまちづくり



うめきた公園

みどりとイノベーションの融合拠点となる防災公園を目指し、基盤整備の実施及び民間の開発事業者を誘導。

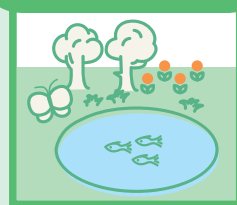
▶詳細はP16へ

2018

レインガーデンによる浸水対策



コンフォール松原
緑道沿いのレインガーデンや、自然度の高い修景池を整備することにより、大雨に伴う浸水被害対策を実施。

地域の自然を読み解き
未来へつなぐ自然の力を活かして
しなやかな基盤をつくる地域でみどりを
育て広げるくらしとみどりが
調和する環境をつくる

URのグリーンインフラは、時代ごとの社会課題やニーズの変化に対応しながら、みどりを自然を「つくる」とともに、その価値を「活用する」ことで発展してきました。

次ページでは、その変遷を支えてきた特徴や考え方を、4つのテーマに分けてご紹介します。



地域の自然を読み解き未来へつなぐ

地形や水系、既存樹林といったその土地が本来持つ自然特性を読み解き、計画や整備に活かすまちづくりを行ってきました。樹木の保全・移植や地形を尊重した設計を通じて、地域の環境資源を活かしながら、時間を重ねて育まれてきた自然を未来へ継承する取組みを進めています。



▲多摩平の森 (東京都日野市)

団地建設前から続く、宮内省の御料林であった頃からの歴史ある樹木を内包した団地です。建替え事業の際には「緑の継承と育成」をテーマに掲げました。敷地内の樹木を一本一本丁寧に調査し、お住まいの皆さまや専門家と議論を重ねた結果、グリーンバンクシステムの実践によって多くの樹木が保存・移植された他、広場や通路等が一体的に整備され、豊かな環境が連なる「緑の回廊」が生まれました。



▲グリーンバンクシステム

工事を行う際、生長した樹木を残したり、移植をすることで、地域や団地の景観・環境を形成したり、伐採した樹木をチップ化する等、リサイクルを通して環境負荷の低減を目指す、UR独自の取組みです。



自然の力を活かしてしなやかな基盤をつくる

みどりをまちや住まいを支える基盤として捉え、様々な整備を行ってきました。これらのみどりは、日常の暮らしを支え、まちを豊かにするとともに、災害時等の非常時には減災・防災に貢献する等、都市の骨格を成す要素として活かされています。



▲グリーンマトリックス (神奈川県横浜市)

谷戸や屋敷林、公園、民有地等の多様な緑地を、歩行者空間によって連結する独自のシステムを「グリーンマトリックス」と呼びます。この考え方に基づき、緑地を保全しながら地域の歴史を継承するとともに、通勤・通学・買い物といった日常の動線を整備しています。これにより、都市の中に特徴的な緑の骨格を形成しています。



▲IKE・SUNPARK (東京都豊島区)

本公園の計画策定にあたっては、「文化・賑わい・環境」の観点から区民ワークショップを開催し、その意見を民間事業者の公募条件に反映しました。その結果、サクラやヤマモモの保存・移植、地域で野菜づくりを行う空間の整備、ランニングコースや健康遊具の設置等が実現しました。さらに、防災倉庫の屋上緑化や隣接大学の公募におけるCO₂削減・緑化対策の実施等、環境への配慮も図っています。



地域でみどりを育て広げる

みどりを地域とともに育て、活用しながら、将来へ引き継ぐ地域資源として位置付けています。多様な主体が関わることで、学びや交流の機会を創出し、持続的なコミュニティ形成を支える基盤となっています。



▲うめきた公園（大阪府大阪市）

令和6年9月に2期区域の先行まちづくりを行いました。2期区域はまちづくりのコンセプトを『「みどり」と「イノベーション」の融合拠点』とし、緑豊かな都市公園と、そこに集う市民との接点を活かした空間として整備しました。大阪の里山植生（在来種）を用いた、生きものの棲息に配慮した環境づくりや、雨水再利用貯留槽の設置をはじめとした雨水流出抑制の他、官民学の連携の結節点として機能することが期待されています。

▶詳細はP37へ



▲江南団地の環境教育（愛知県江南市）

建設当初から残されてきた江南団地の森は、お住まいの皆さまだけでなく、地域にとっても貴重な緑です。このような資源を活かし、令和2年から江南市とURが協働して環境学習会を実施しています。どんぐりや昆虫の観察等の体験を通じて、身近な自然や生きものとの関わりやその重要性を子どもたちに伝えています。

▶詳細はP40へ



くらしとみどりが調和する環境をつくる

水やみどりなどの環境資源を活かし、緑地や水辺空間、多様な生きものが共生できる環境を整備しています。また、継続的な維持管理にも取り組むことで、くらしと自然環境が調和する快適な空間を育んでいます。



▲常盤平団地（千葉県松戸市）

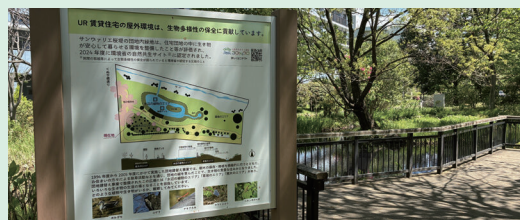
緑豊かな環境を活かし、環境学習の場としても活用されている団地です。多様な樹木や草花が広がる敷地内では、生きものの姿や季節の変化を身近に感じることができ、暮らしの中で自然への理解や関心を育む環境が整えられています。こうした取り組みが評価され、SEGES※「そだてる緑」部門で「Excellent Stage3」の認定も受けています。

※ 民間企業や団体が管理する緑地の社会・環境貢献度を評価・認定する制度

▶詳細はP38へ



▲サンヴァリエ桜堤（東京都武蔵野市）



▲サンヴァリエ桜堤（東京都武蔵野市）

建替え事業をきっかけに団地内を流れる河川を活かし、川辺の環境整備やビオトープ池の整備が行われました。その後の生きもの調査により多様な動植物の生息が確認され、その生物多様性への貢献が評価されて、令和7年に環境省の「自然共生サイト」に認定されました。

2027年国際園芸博覧会 (GREEN×EXPO 2027) に参画します！



※本画像は現時点のものであり、今後変更になる可能性があります。

UR GREEN TABLE

まちとくらしの未来を語るテーブル。

令和9年3月19日から9月26日まで横浜で「GREEN×EXPO 2027」が開催されます。

URは、“まち”と“住まい”に関わるさまざまな社会課題に向き合い、環境への取組みや社会貢献を通じて、豊かで潤いのある環境と持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

URがこれまで培ってきたノウハウやパートナーシップにより

- 環境にやさしく、自然と共生し、人と社会が持続する未来につながるまちづくり・住まいづくりの風景などの発信
- 東日本大震災など災害からの復興の歩み・未来の発信
- 人々が憩い・交流する場を創出

することで、URならではの価値を提供します。

▼詳しく知りたい方はこちら

<https://www.ur-net.go.jp/news/information/greenexpo2027.html>



「UR GREEN TABLE」は、まちとくらしの未来を語るテーブルです。「GREEN」をウェルビーイング、防災、エネルギー、食など、都市を支えるみどりのインフラと捉え、「TABLE」を人が集い、新しいアイデアが生まれる場と考えています。



博覧会テーマ

“幸せを創る明日の風景”



URミッション

“人が輝く都市をめざして、美しく安全で快適なまちをプロデュースします”

UR参画テーマ

“人が輝く まちとくらしの風景”

都市再生 “みどりがつくるまちの風景”
賃貸住宅 “みどりと暮らす住まいの風景”
災害復興 “人と自然が共生する復興の風景”



▲提供：2027年国際園芸博覧会協会